

知事記者会見の概要

日 時：令和7年7月2日（水） 10:31～11:07

場 所：502会議室

出席記者：10名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から2件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 戦後80年の県の実績について
- (2) 令和7年4月からの天候不良等被害対策資金の発動について

代表質問

- (1) 副知事2人制について

フリー質問

- (1) 第27回参議院議員通常選挙について
- (2) 代表質問に関連して
- (3) 山形新幹線の車両故障に伴う運休について
- (4) 発表事項2に関連して

<幹事社：山新・時事・SAY>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

今日も大変暑くなりそうです。これからもですね、30℃超えの日々が続くというふうに予想されております。

熱中症で救急搬送された方も、前年の同じ時期に比べて非常に多くなっています。今後、本格的に暑くなってきますが、熱中症の危険性が極めて高い日には、熱中症警戒アラートが発表されます。

アラート発表時は、こまめな水分補給や、外出の際に日傘や帽子で日射しを避ける、室内ではエアコンを適切に使用するなど、くれぐれも熱中症にならないようにご注意いただきたいと思います。

それから、デフリンピックです。本県出身の齋藤京香選手が、東京 2025 デフリンピック水泳競技の日本代表に内定しました。本県出身の選手としては、陸上競技の齋藤丞選手に続き 2 人目の代表内定となります。

両齋藤選手の活躍が、県民の皆さんに元気と勇気、活力をもたらすと思いますので、東京デフリンピックでのメダル獲得を目指して頑張っていただきたいと考えております。

☆発表事項

知事

ここで発表、2 点あります。

まず 1 点目ですけれども、戦後 80 年の県の取組みについてです。戦後 80 年の節目を迎える本年、県として新たな取組みを実施いたします。

先日、地域において戦争の記憶継承に取り組まれている九里学園高等学校校長の九里先生と、村山市にある「小さな小さな平和祈念館」の下山館長からお話を伺う機会がありました。

お二人からは、「戦争について知らなければ、戦争や平和について考えることができない。まずは知る機会を確保することが重要だ」というお話をいただき、改めて戦争の記憶を次世代へ伝える意義を強く認識したところであります。

こうしたご意見を踏まえ、戦争の記憶と平和の尊さを、次代を担う子どもたちへ伝え、共有・継承するための新たな取組みを進めてまいります。具体的には、お手元の資料をご覧ください。

まず、終戦の日を迎える 8 月には、遊学館で「県民が書き残した戦争展」を実施いたします。併せまして、小学生を対象として戦争について考えるワークショップを開催するほか、11 月には沖縄「山形の塔」慰霊祭への県内高校生の参列など、各年代の子どもたちと共に戦争について知り、考えていく機会にしたいと考えております。

戦争体験者の声を直接お伺いする機会が少なくなっております。そういう中、当時の記憶を次代に継承することは、戦争の惨禍を繰り返さないために何よりも重要と考えております

ので、県民の皆様にも改めて関心をお寄せいただけるよう、周知へのご協力をお願いいたします。

2点目ですけれども、令和7年4月からの天候不良等被害対策資金の発動についてです。

お手元に資料を配布しておりますが、令和7年4月からの天候不良等の影響で、さくらんぼなどの減収被害を受けた農業者に対する資金繰り支援としまして、「令和7年4月からの天候不良等被害対策資金」を本日から発動することといたしましたので、お知らせをいたします。

この資金は、県と市町村が協調して利子の一部を負担することで、0.9%の低利子とし、さらに融資機関で残りの利子の負担をしていただける場合に、無利子での融資を受けられるものです。

報道機関の皆様には、幅広くご活用いただけるよう周知へのご協力をお願いいたします。

県としましては、さくらんぼ生産者の皆さんが希望を持って、安心して生産に取り組んでいただけるよう、引き続きしっかりと支援してまいりたいと考えております。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

さくらんぼテレビの柿崎と申します。よろしくお願いします。

昨日の県議会6月定例会で、副知事の定員を2人にする条例案が可決されて、新たな副知事に国交省の折原英人さんを起用する人事案も同意されました。

そこで、副知事を2人置くことで、県政運営にもたらすメリット、そして折原さんに期待する役割について、改めて吉村知事のお考えをお伺いしたいと思います。

知事

はい。では、お答え申し上げます。

昨日閉会した県議会6月定例会で、副知事の人事案件についてご承認をいただきました。その後、調整を行いまして、7月7日付で折原英人さんを副知事として任命することといたしました。

まず、期待する役割ですけれども、折原さんは、旧運輸省出身で、国土交通省の鉄道局、航空局、文化庁などにおられ、奈良県に出向された際には、地域交通や観光政策に携わるなど、地方行政の経験もお持ちであります。

これまでのキャリアを活かし、本県が目指している山形新幹線米沢トンネル（仮称）の整備や山形・庄内両空港の滑走路延長などはもちろん、部局横断のさまざまな課題にもその手腕を発揮していただくとともに、政府との連携強化を図るためのパイプ役を担っていただくことを期待しております。

次に、副知事2人制が県政運営にもたらすメリットではありますが、新しい副知事にそういつ

た役割を担っていただくことで、諸課題にスピード感を持って対応し、将来の山形県の発展の基盤となるさまざまな重要事業を着実に前に進めていくことができるようになり、将来にわたって地域の活力が持続する県づくりを、力強く推進していけるようになると考えております。

☆フリー質問

記者

TUYの藤井です。よろしくお願いします。

明日、公示される第27回の参院選ですけれども、知事はどの立候補者を応援されるか決めておられますか。

知事

いえ、まだであります。

県行政のトップとして、人口減少対策はもちろん、長引く物価高騰への対応など、さまざまな課題、山積しております。しっかりと、その課題に対応するということでまい進しているところであります。

選挙の対応ということでは、後援会とも相談しながら考えてまいりたいと思っております。

記者

知事は、これまで知事としての活動の中で、常々「恩返し」という言葉を大事にされてきたと思います。

昨日の県議会でも可決された副知事の2人制の件に関して、県政クラブと自民党、どちらからも支援を受けたと思いますけれども、恩返しのタイミングとしてはこれ以上ないと思いますが、その件に関してはいかがですか。

知事

そうですね。

本当に選挙となるといつも大変悩みながら、私は対応してきましたけれども、やはり恩返しということが一つの私の尺度と言いますか、だいたいそこを中心にしながら考えているわけなんですけれども、ずっと前からですね、応援していただいている方もあれば、途中から応援していただいている方もあります。どちらも応援者ということになりますね。そういったことを考えますと、いろいろと難しいなというふうに思っています。

私自身は「県民党」ということでありまして、何党ということにはならないんですけれども、やはり多くの皆さんのお力を、ご支援をいただきながらこれまでやってきましたし、これからはやはり、一緒にですね、県政を前に進めていければと思っておりますので、本当に色々と総合的に考えながら、また、何よりも後援会の皆さんと相談をしながら考えていくし

かないかなというふうに思っております。

記者

では、今回の参院選、コメの政策であったりとか、消費税増減の是非とかが焦点になっておりますけれども、各候補者は、山形のひいては日本の夏を変えるという意気込みで臨んでいますけれども、知事は公示される前日のこのタイミングでまだ誰を応援されるか決めていないということで間違いないですか。

知事

はい。現時点では、まだ決めておりません。県民の皆さんにはやはりそれぞれの候補者の方々の公約と言いますか、おっしゃっていることをしっかりと見極めて、そしてご判断をいただきたいというふうに思っています。

記者

NHK、永田です。

今のご質問に関連してですが、「まだ決めていない」ということで、あくまで中立のお立場ではなく、どの候補を応援するかを明確にするということですか。まだ決めていないと言うと、今後決めるということですか。

知事

そうですね、決めるか明確にするかしないかも含めて、後援会の皆さんと相談していきたいと思います。

記者

たとえばこの前の衆院選のときだと、「恩返し」という言葉を使って、どこの事務所にも行って、中立な立場というところを県民の皆さんは感じ取られたかなと思うのですが、今回はそういうことではないということですかね。

知事

そうですね。県内では4人の方が立候補していらっしゃいますし（補足：令和7年7月2日時点では5人が立候補予定）、大変難しいなと思います。心情的なものがないことはないのですが、ただ色々と考えた場合にですね、私が動くことは難しいなと思っています、現時点で。

記者

分かりました。あと、配布資料の件なのですが、最初の目的のところに「さくらん

ぼ等」というふうにあるのですが、これは、他にはどのようなものを想定されていますでしょうか。低金利融資（令和 7 年 4 月からの天候不良等被害対策資金）のほうですね。

知事

現在、やはりさくらんぼというのが大きいと思っているのですけれども、ただ、ちょうど果物の花が開花する時期にですね、さくらんぼだけでなく他の花もなかなか、強風が吹いたり、寒くなったりして、受粉がなかったようなものがあると聞いていますので、同時期にですね、開花した他の果物も考えられるかなと思います。

記者

これまでもこういった低金利融資、出されているので、たびたびで大変恐縮なのですが、こういう低金利融資をすることによって、農家さんを引き止める、離農するのを引き止めるだとか、どのような目的を持ってこういったものを出されていますでしょうか。

知事

そうですね。本当に、昨年も高温障害ありましたし、今年の開花期の天候不良ということで、度重なる気象災害というふうに言えると思います。それに加えて農業機械の価格が高騰しているといったようなこともございます。フルーツ生産者のおかれる状況、だいたい農業全部だと思うのですけれど、生産者の皆さんがおかれている状況というのは、大変厳しいものになっているというふうに思っております。

そういうときにですね、JA グループから緊急要請を受けたということも踏まえているのですけれども、まずは既決予算を活用して、早急に対応できるものとして、今回の資金発動をすることとしたわけであります。まずは、目の前、本当に（さくらんぼ等の果樹生産が）収入源になっている方々に対してですね、次回も生産できるように、私どもとしても県としても、しっかりと応援していきますよ、ということをお伝えするメッセージにもなるかなというふうに思っております。

記者

山形新聞、稲村です。

副知事 2 人制の件でお尋ねします。冒頭におっしゃられたようにトンネル整備、滑走路延長等々、非常に重要なプロジェクトがある中で、具体的にですね、折原さんにはどういうふうに関わってプロジェクトを前進させて行きたいという思い、考えが御有ですか。

知事

そうですね、まだ任命もしておりませんので、ようやく条例改正と人事案件を可決いただいたというところでありますので、まず、ご本人もいらっしゃってからですね、それから一

緒に考えたいというふうに思っています。

記者

米坂線にしても、動かない課題、前進しない課題があるので、そういったところも含めて非常に期待されている部分はあるということでしょうか。

知事

そうですね。やはり、16年前にはなかった、私の公約に掲げている、滑走路延長でありましたり、新幹線のトンネルでありましたり、そういったことはやはり、しっかりと新しい副知事になる方のお力もお借りしながら前に進めていければというふうに思っております。

米坂線もありますけれどもね、米坂線は新潟県と山形県と両県をまたぐ路線でありまして、しかも、JR 東日本の所管でありますので、本当にしっかりと連携しながら進めていくというような事案であります。トンネルもやはり、JR 東日本とそれから色々財源的なことを考えると、政府にもお力添えをいただいて、ということになってきますので、そういう時にもやはり、お力を貸していただければと思いますし、あと、滑走路はですね、県の事業にはなるのですけれども、やはり、かなりの大きな費用がかかってまいりますので、そういった時にも、さまざまなその財源の捻出みたいなのが大事かなと思っているのですけれども、そういったさまざまな面で、識見、ネットワーク、そういったものを、お力をお貸しいただきたいというふうに思っております。

記者

河北新報の八木と申します。よろしくお願いします。

先ほどの山形新聞さんの質問に関連するかと思うのですが、副知事、これで2人体制にこの度なられたということで、以前にも質問が出ているかと思うのですが、高橋副知事と折原副知事で担務を明確に分けるのか、それとも知事も時々おっしゃっていたと思うのですが、どちらかというふうに決めないで連携していくような体制になるのか、どちらかというとうどういうふうな体制で考えていらっしゃるのかなというところをお伺いしたいです。

知事

今、記者さんがおっしゃったミックスになると思います。つまり、ある分野では担当を決めますけれども、重要プロジェクトでは一緒に連携してもらうというようなことになるのかなという、今、そういうイメージで考えています。

記者

仔細みたいなものはこれから決めていくというような。

知事

そうです。まだそんなにはっきり決めているわけではありませんので。この分野は高橋副知事が得意であるとか、この分野は折原さんが得意であるとか、そういったことを考えながら。ただ、重要なことについては、2人一緒に私と連携してというようなことになるのかなというふうに思っています。

記者

共同通信の中村です。ちょっと話題は変わって、山形新幹線についてお伺いしたいのですが、今、E8系の単独運行が取りやめになっていて、運休の列車も出ているのですけれども、まず、これについては、山形県の知事としてはどういうふうに受け止めているか教えてください。

知事

受け止めですか。はい、分かりました。

これまでのことをまず言いますと、6月17日に山形新幹線車両E8系の故障が発生しました。それで、山形新幹線は列車本数を減らしたうえで、一部直通列車を除き、福島駅～山形・新庄駅間で折り返し運転となっており、山形と東京方面を新幹線で移動する場合には、福島駅で乗り換えが必要となっております。

JR東日本の公表によりますと、7月1日までに約11万人以上の利用者に影響が出ており、故障原因が判明するまでの間は、現在の運行形態を継続するとされており、現時点で運転再開の目途は立っていないところです。

所感になりますけれども、山形新幹線は、観光やビジネス、県民の足として大変重要な交通機関であります。その運休は県民生活や経済活動などに与える影響が大変大きいと考えています。特に今回の運休はさくらんぼ観光の時期と重なってしまいまして、宿泊のキャンセルなど観光面での影響が見られているところです。

現在の状況が長期で続いた場合、本県経済にさらに大きな影響を及ぼすことが懸念されるところであります。

記者

ありがとうございます。これに関して、鉄道事業者のほうに、やっぱりこうしてほしいというのはあると思うのですけれども、何らか要望を伝えたり、何かを求めていくという考えはあるのでしょうか。

知事

はい。県では、今回の事案に関しまして、JR東日本に対し原因の早期究明と直通運転の再開や、それまでの間の福島駅での乗り継ぎ改善、分かりやすい運行情報の提供などを要請し

てきております。6月23日にJR東日本東北本部、27日にはJR東日本本社の新幹線統括本部を、みらい企画創造部長が訪問して要請を行いました。

JR東日本からは、現時点で原因の特定には至っておらず解明を急いでいる状況であり、しっかりと当面の運転計画を考えるとともに、分かりやすい情報提供に努める、といった回答があったところであります。こうした県からの要請も踏まえ、JR東日本において福島での乗継便を示した時刻表の公表など、情報発信の改善が行われております。

県としましては、1日も早く運転が再開されるよう、引き続きJR東日本と状況について情報交換を行うとともに、状況を注視しながら対応を図ってまいります。

これからもしっかりと要請はしていきたいというふうに思っています。

記者

ちょっとさくらんぼ観光の時期に重なったというお話もありましたが、宿泊のキャンセルとかさくらんぼの観光への影響というのは、どれくらいの規模というか、大きさに捉えていらっしゃるのでしょうか。

知事

そうですね、この山形新幹線の一部運休に係る影響などにつきまして、県内の主要な温泉旅館やビジネスホテル等にお聞きをしました。そうしたところ、事態発生直後から数日は1施設あたり数件から数十件のキャンセルが発生しましたが、福島駅での乗り換えや仙台経由などの来県方法が観光客の方に認知されたことで、その後は1日数件程度のキャンセルで推移しているとのことであります。

一方で長期運休によるマイナスイメージの定着などの影響を懸念する声も聞かれたところであります。足が遠のいてしまうというような、やはり心配がありますね。

全体的にどのくらいキャンセルがあったのかというようなことについてはですね、まだ全体の把握はできていないんですけれども、そういったことも把握していきたいというふうに思っています。

記者

わかりました。最後に、県の対応としては、観光面については、その事態、キャンセルの状況とかの全体状況の把握と、情報提供に努めるというようなことでしょうか。

知事

そうですね。

記者

朝日新聞の斎藤です。よろしくお願いいたします。

参院選に戻りますけれども、明日公示ということで、候補者が、さまざまなテーマで論戦が交わされるかと思います。知事としてはどんなテーマで論戦が深まって、それが国政に反映させたらいいなというふうに思っていますでしょうか。

知事

そうですね、課題は山積しております。まず目の前の課題、物価高騰とかですね、そういったこともありますし、また中長期的な課題で言えば、地方創生、持続可能な山形県、地方の持続可能で明るい未来を作っていくというようなこともあるかと思っていますので、それぞれの候補者の皆さんがどういったことをお訴えになって、県民の皆さんに働きかけられるのか、そこを注視していきたいというふうに思っています。

記者

はい、ありがとうございます。

重ねてなんですけれども、今年の1月の知事選でも示された通り、吉村知事の県内での支持というのは大変幅広い、人気があるというふうに言ってもいいかと思いますが、その吉村知事が参院選でどういうふうに対応するかということは、県内の有権者も大いに関心があるところかと思っています。改めてどういうふうに対応されるのかというのを、すみません、重ねてですが。

知事

そうですね、先ほども同じような質問があったかと思いますが、やはり現時点でお答えすることはできませんので、私の支援者の中核でもある後援会の皆さんと相談をしながら考えていきたいと思っています。

記者

先ほど、現時点で動くのは難しいというふうな発言、おっしゃったかと思うのですが、今回は等距離で対峙すると言いますか、静観するという、そういったことも選択の一つというふうなことになるのでしょうか。

知事

それも含めて相談をしていきたいというふうに思っています。

記者

すみません、YBCの穂積です。よろしくお願いいたします。

副知事の話に戻らせていただきたいなと思います。今回、副知事に来週任命される折原さんなんですが、これまで山形県内との関係というのがあるかどうかというのと、知事御自身

で面識があるかどうかなんていうのをちょっとお伺いしたいんですけれども。

知事

そうですね、ちょっと山形とどういうゆかりがあるのかというようなことはまだお聞きしていないところです。いらっしゃったらお聞きしてみたいと思います。

面識は、お会いしたことはございます。

記者

そのときはどのような印象を持たれたかというのは、何か覚えていることはありますか。

知事

そうですね、やはりしっかりした方だなというふうな印象であります。

記者

ちなみにそれはいつ、どのタイミングで、どういうシチュエーションでお会いになられたのでしょうか。

知事

それはですね、いろいろと人事のプロセスみたいなことにも関わってきますので、今申し上げることは差し控えさせていただきたいと思います。

記者

そういった中で、どういう経緯で折原さんに白羽の矢が立ったのですか。

知事

それはですね、やはり人事のプロセスということになりますので、具体的なところはちょっと申し上げられないところです。差し控えさせていただきたいと思います。

ただ、県内外、幅広い視点で適当な方がいらっしゃらないかというふうに探しておりましたところ、折原さんという方で調整がついたというようなことになるかと思います。

記者

どなたかから御提案があったのですか。

知事

いえ、ありません。

記者

さくらんぼテレビです。

天候不良等被害対策資金について、いくつかお伺いしたいんですけど、まず細かいところからなんですけど、先ほどJAから緊急要請があったというふうな発言があったかと思うんですけど、その緊急要請の内容を、農家の方々を補助してほしいというものなのか、それとも今回の施策というか、金利を補助してほしいという具体的なところまでお話があったのかお伺いできますか。

知事

ちょっとその要望書を今、手元に持ってきていないんですけども、やはり数点、資金繰り支援とかですね、さまざまなことがあったように思います。農林（水産）部で、後でそこは答えできると思います。

記者

今回、この施策のきっかけというのはJAからの緊急要請を受けて考えたものという認識になるんですか。

知事

いえ、それから初めて考えたわけではなくて、やはり県内の状況、春から開花期の天候不良がありましたので、ずっと心配しておりました。そしてこの高温が続いたりということもありまして、内部でもいろいろと検討を始めていたときに、JAグループさんからもそういう緊急要望をいただいてというふうに重なったところです。

記者

最後なんですけれども、先ほども2年連続の不作で、農家の方々も非常に厳しい状況だということをおっしゃってましたけれども、実際私たちが調べたところでも、2年連続の不作で農家を続けられないというようなお声もちらほりました。

そんな中で、非常に厳しい状況、吉村知事から農家の方々に何か語り掛けたいものとかあればお伺いできないでしょうか。

知事

そうですね、まずはさくらんぼなどのフルーツに絞って申し上げますと、今年が、栽培が始まってから150年ということで、生産者の皆さんと一緒に盛上げていこうという機運醸成を図ってきたところなんですけれども、大雪で枝折れしたり、幹折れしたり、そして春先の天候不順、今回の高温が続くというようなさまざまな気象災害で生産者の皆さんは大変御苦労されていると思います。今年が150年、あと50年経つと200年になるわけです。150

年を迎えられたのも先人の皆さんがですね、大変、御苦勞を乗り越えて挑戦して続けてくださったから今があると思っています。

ですから将来の世代のためにもですね、できる限り生産を続けていただけるように、私どももできる限りのサポートを、ご支援をしていきたいので、ぜひ続けていただきたいというふうに思っております。